平成6年度総会
――規約改正案承認される――

今年度通常総会が、去る7月17日、ニューグランドホテルに於いて開かれた。今年は、約百四十名の会員の参加を得て、事業報告、計画、決算、予算等の他に、規約の大幅な改正案が提出され注目を集めたが、いずれも満場一致で承認された。総会終了後、塚本隆久氏（S29卒、現林野庁長官）の記念講演が行われ、出席者に深い感銘を与えた。（内容については2ページ）

会は萬田修氏（S37卒）の進行で始まり、校歌斉唱、物故会員への黙禱のあと、丸山会長から、今後の活動、及び会の進行への協力をお願いする挨拶が述べられた。続いて椎名学校長から百二十周年記念事業への協力に対するお礼と、硬式野球部を中心とした部活動の活躍、進学状況など、学校の現況説明を中心とした挨拶があり、議事に入った。

最初に、会務・事業報告が伊藤事務局長によって行われた。次に各常置委員会からの報告があり、企画委員会からは大友康二委員長（S25卒）が、理事会、総会の時期を従来より二ヶ月近く早めたこと、今後の予定などについて述べた。財政委員会の豊口祐一委員長（S34卒）からは、この後の審議への協力のお願いがあった。広報委員会からは田口能祐委員長が、本年度発行の「同窓会だより」について、新しい企画を盛り込んで、会員の意見を反映させてゆきたいという編集方針が述べられてた。名簿委員会からは工藤雄一委員長（S33卒）が、昨年作製した名簿36号は信頼度の高いものであるが、今後も一層確度を高めるための努力をしてゆきたいことなどが主な点である。次に本年度事業計画および収支予算案が出され、これらも万場の拍手で承認された。最後に本総会の最重要議題である規約の改正案が、大友康二企画委員長から提案され、主旨説明が行われた。改正の主な点は、文言と機構の整理、及び全会員による会費制（年二千円）の導入である。

特に会費については、これまで、新入会員の入会金と、各年次からの年次会費および各役員からの会費で会を運営してきたものを、入会金と、全会員からの会費に切り替える画期的な改正である。

審議の結果、すべて原案通り承認され、会費については平成7年4月1日から、その他の会則については平成6年7月17日から施行されることになった。（詳細については別刷に掲載）

告、監査報告がなされ万場の拍手で承認された。学校林の立木の売却により収入額が増えたこと、名簿会計では、約六百万円の残があったことなどが述べられた。その後、昨年度収支決算報告がなされ万場の拍手で承認された。学校林の立木の売却により収入額が増えたこと、名簿会計では、約六百万円の残があったことなどが主な点である。次に本年度事業計画および収支予算案が出され、これらも万場の拍手で承認された。最後に本総会の最重要議題である規約の改正案が、大友康二企画委員長から提案され、主旨説明が行われた。改正の主な点は、文言と機構の整理、及び全会員による会費制（年二千円）の導入である。

特に会費については、これまで、新入会員の入会金と、各年次からの年次会費および各役員からの会費で会を運営してきたものを、入会金と、全会員からの会費に切り替える画期的な改正である。

審議の結果、すべて原案通り承認され、会費については平成7年4月1日から、その他の会則については平成6年7月17日から施行されることになった。（詳細については別刷に掲載）

同窓会決算・予算

	平成5年度 決算額	平成6年度 予算額
〈収入の部〉		
入会金	3,305,400	3,312,000
年次会費	890,000	1,350,000
役員会費	1,055,000	1,800,000
協賛広告収入	570,000	680,000
基金運用収入	323,024	300,000
学校林収入	4,457,813	0
寄付金	0	10,000
雑収入	25,903	25,000
繰越金	3,274,404	4,228,637
合計	13,901,544	11,705,637
〈支出の部〉		
事務費	1,508,935	2,290,000
会議費	1,834,913	2,400,000
事業費	3,923,694	3,900,000
基金	2,000,000	2,000,000
雑費	296,096	270,000
予備費	109,269	845,637
合計	9,672,907	11,705,637
繰越額	4,228,637	

甲子園で感じたこと

硬式野球部長　柴山芳隆

第76回の全国高校野球選手権大会は、八月八日から甲子園球場で行われ、本校はこの大会に三年ぶり十七回目の出場を果たした。

これより先の三月に行われた第66回の選抜大会にも四回目の出場をしていたから、春夏連続の甲子園出場となった。

今年創立百二十一周年を迎えた本校は、硬式野球部も創部百年を数えるが、春夏連続出場は昭和四十年以来だから二十九年ぶり、二回目ということになる。

今年この二つの大会に出場するにあたっては、県内外の多数の方々から多大の御協力と御支援をいただいて感謝に堪えないが、中でも同窓の諸兄姉には、大変な御高配と御尽力をいただいた。心から厚く御礼申し上げる次第である。

百年の伝統のなかでわずか二回目という連続出場を実現したことは、それを成し遂げた生徒たちのこれからの長い人生において決して小さくない意義を有するものと考えられる。今後も野球を続ける生徒にとってはもちろんだが、野球を離れていくことになる生徒にとっても、甲子園での汗と涙は生涯の財産として永く記憶され続けることだろう。

甲子園の高校野球をめぐっては、その肥大化や華美に走りがち傾向など、いくつかの問題点が指摘されているが、少なくとも、今年の春と夏に甲子園でプレーしてきた本校の選手たちにとっては、甲子園はやはり純粋で美しい野球の場であったと断言してよいと思う。

さて、春の大会では、結果的に優勝した智弁和歌山高校と初戦で対戦し、八対四で敗退を余儀なくされた。

夏の大会はその経験を生かし、雪辱の意気に燃えて、八月一日に甲子園に乗り込んだ。全国一番乗りということは翌日の報道で知った。

六日に組合せ抽選会が開かれ、本校の対戦相手は鹿児島の樟南高校と決まった。甲子園の常連校の一つである鹿児島商工高校が今年から校名を改めたものである。

どんな強敵と当たっても後までわが方にほほえまず、結局、八対二で涙を呑まざるを得なかった。

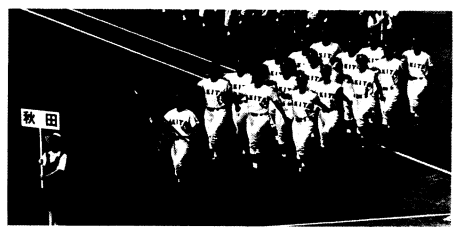
本校との試合ではずみをつけたのか、樟南は決勝まで進んで準優勝校となった。

相手が最終的に優勝あるいは準優勝した学校であるとはいえ、本校がいずれも緒戦で敗れたのはいかにも残念なことである。

東北地方に優勝旗をもたらすとすればそれは秋田県か宮城県かと言われているようだが、秋田県、なかんずく本校にあの優勝旗をもってこようとすれば、選手集めの段階から今一度考え直してよい時期にきているのではないかと思われる。

もちろん、高校野球であるから勝つことが必ずしも最終の目標ではないが、勝つことによって得られる教育的意義も大きなものがあるだろう。

文武両道を校是とする本校である。勉学とスポーツに同等の力をそそぎ、車の両輪をうまく回転させて校勢の一層の昂揚をはかることが大切だと思う。



堂々の入場をする秋高チーム

募金について

参与　櫻谷吾朗

私はかつて、野球部長として、近くは同窓会事務局長として、野球部の甲子園派遣の募金に参画した経験から、より即応的、効率的な募金の方法を考えてきた。

現在は、ご承知のように募金委員会を組織、先生達も動員して手広く募金している。私は生徒指導に当る諸先生には、お金の心配をかけることなく、全国大会を目標に専ら生徒、選手諸君の指導に専念していただきたいと思う。

母校への協力は、同窓会の目的のひとつである。したがって甲子園出場の際の募金も、同窓会が打って一丸となってその中心的役割を担うべきであろう。

来年は、同窓会の設立八十周年の年に当り、かつまた会則改正で、その運営の経費を個人会費に切り替えることにした。そのため、名簿の整備と、コンピューターへの入力など着々と準備を整え、その結果、現在連絡のつく会員は、約二万名（生存会員の約八十%）である。

学校でもこの名簿を利用して、最近の出場の際には全会員に趣意書を送り、それなりの成果をあげている。

そこで、今後は同窓会の各委員会の協力をお願いして、いざ甲子園出場という時には、何時でも発動できる募金の仕組を作っておくのはどうであろうか。

その一案として、創立百二十周年にもなる秋田高校の募金体制にふさわしく、同窓会長名で対象を同窓生一本に絞って募金をお願いするのである。

PTAの募金については、学校にお任せするとして、各支部、職場、一般、企業に奉加帳を回しての募金は一部重複するなどの無駄な面もあるので、止めてはどうだろうか。

私は、一般や同窓オーナー企業の好意的な協力まで拒むつもりは勿論ない。その時に応じて別途お願いすることもあると思う。

その結果、募金の成果はこれまでより減少するかも知れない。その際は、いただいた浄財を節約して、効率的使用に徹し、出場の目的を果すべきである。

幸いにして、残金が出た場合はこれをプールしておいて、野球部の強化に充てることは勿論であるが、他のクラブが全国大会等に出場する場合、現在は同窓OBの協力のみに頼っているのが方にほほえまず、結局、八対二で涙を呑まざるを得なかった。

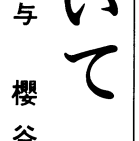
本校との試合ではずみをつけたのか、樟南は決勝まで進んで準優勝校となった。

相手が最終的に優勝あるいは準優勝した学校であるとはいえ、本校がいずれも緒戦で敗れたのはいかにも残念なことである。

東北地方に優勝旗をもたらすとすればそれは秋田県か宮城県かと言われているようだが、秋田県、なかんずく本校にあの優勝旗をもってこようとすれば、選手集めの段階から今一度考え直してよい時期にきているのではないかと思われる。

もちろん、高校野球であるから勝つことが必ずしも最終の目標ではないが、勝つことによって得られる教育的意義も大きなものがあるだろう。

文武両道を校是とする本校である。勉学とスポーツに同等の力をそそぎ、車の両輪をうまく回転させて校勢の一層の昂揚をはかることが大切だと思う。



提言

母校への協力は、同窓会の目的のひとつである。したがって甲子園出場の際の募金も、同窓会が打って一丸となってその中心的役割を担うべきであろう。

来年は、同窓会の設立八十周年の年に当り、かつまた会則改正で、その運営の経費を個人会費に切り替えることにした。そのため、名簿の整備と、コンピューターへの入力など着々と準備を整え、その結果、現在連絡のつく会員は、約二万名（生存会員の約八十%）である。

学校でもこの名簿を利用して、最近の出場の際には全会員に趣意書を送り、それなりの成果をあげている。

そこで、今後は同窓会の各委員会の協力をお願いして、いざ甲子園出場という時には、何時でも発動できる募金の仕組を作っておくのはどうであろうか。

その一案として、創立百二十周年にもなる秋田高校の募金体制にふさわしく、同窓会長名で対象を同窓生一本に絞って募金をお願いするのである。

PTAの募金については、学校にお任せするとして、各支部、職場、一般、企業に奉加帳を回しての募金は一部重複するなどの無駄な面もあるので、止めてはどうだろうか。

私は、一般や同窓オーナー企業の好意的な協力まで拒むつもりは勿論ない。その時に応じて別途お願いすることもあると思う。

その結果、募金の成果はこれまでより減少するかも知れない。その際は、いただいた浄財を節約して、効率的使用に徹し、出場の目的を果すべきである。

幸いにして、残金が出た場合はこれをプールしておいて、野球部の強化に充てることは勿論であるが、他のクラブが全国大会等に出場する場合、現在は同窓OBの協力のみに頼っているのが実情からして、過去の実績を参考にして、運動部に限らず、それ等のクラブにも援助したいものである。

母校は、今や県下の中心校として、「文武両道」、「自主自律」を校是として、一層の発展を期している。

同窓会もまた、個人会費制に移行し、財政的基盤を固め、会員との絆をより一層深めようとしている。

この機会に、募金の方法に検討を加え、更にはあくまでも教育の一環としての、高校野球の在り方についても、反省する必要はないだろうか。

同窓各位のご理解とご協力を切にお願いして私の提言とする。

天上天下

▼先頃、津軽国定公園龍飛を訪ね、津軽海峡を隔てて北には北海道の山脈、南には裏龍飛海岸や小泊の権現崎を望むなどのすばらしい景観を楽しむことができた▼太宰治の小説「津軽」に「ここは本州の袋小路だ」と書かれている津軽半島の先端、龍飛崎は、昭和六十三年三月青函トンネルが開通し、北海道への玄関となった▼現在は、豊かな自然に加えて、総延長五十三・八五キロと世界最長の青函トンネルについての記念館や東北電力の風力発電実証試験設備について知ることのできる龍飛ウィンドパークもあり、観光客の誘致に大きな役割を果たしている▼秋田県にも地域活性化の情報発信基地をめざす「秋田ふるさと村」が、今年四月横手市にオープンするなど各地にすぐれた施設があり、特産品の販売の場や地域の文化を伝えるシンボルとしても親しまれている▼教養文化、娯楽、スポーツなどさまざまな分野の施設があり、これに公的な温泉まで含めるとかなりの数にのぼるが、利用の状況はどのようなものなのだろうかオープン当時より訪れる人が減ってきていると言う話も聞く▼各施設では新しい演出やイベントを展開するなど誘客に力を入れているようだが、一つの施設だけでは限界があり情報も伝わりにくいし、新たな付随施設の建設もすぐにはできることではない▼展示のレベルアップはもちろんのことだが、道路交通網の充実に伴って、周辺市町村のリゾート観光施設などともタイアップした総合的・広域的なプランが必要な時期に来ているのではないだろうか

秋高同窓会だより

題字は第六代塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL 0188(32)9553

印刷所
秋田オフセット
印刷株式会社

記念講演

「森林・環境・資源」

林野庁長官　塚本隆久氏（S29卒）

同窓会総会の後、林野庁長官塚本隆久氏の講演が行われた。「森林・環境・資源」という題で、地球環境の保全が叫ばれる中、森林の果たす意味について解き明かし、大いに聴衆の共感を得た。以下、要旨である。

森林はこれまで人類のために大きな役割りを果たしてきた。だが熱帯雨林を中心とした大幅な減少は地球環境に影響を与え、今や世界の関心事となっている。今日、森林は陸地の三分の一を占めているが、実は毎年日本の森林の三分の二に当たる面積の熱帯林が減っているのである。森林は「地球の肺」とも呼ばれ、炭酸ガスを吸い、酸素を放出して地球の生態系を支えてきた。もし、森林がなくなるとすれば、地球は全く変わってしまうであろう。

ところで、その原因として次の三点が挙げられる。

①焼畑農業による消失
②生活燃料としての消費
③木材・燃料の商業伐採

日本の木材輸入量は全世界の一％にすぎない。しかし、世界に応分の責任を負っているのも事実である。

＊　＊

森林は水の循環を促し、地球の気候を温暖なものにしてきた。太陽エネルギーが直接降り注ぐ砂漠では、生物が育つ環境は形成されない。炭酸ガスを吸収し固定する能力を持つ森林は、動植物の共存の微妙な均衡を保ってもいるわけである。従って、陸地における森林面積は、是非とも確保されねばならないのである。

森林保護のため、最近五項目からなる「森林原則声明」が出され、持続的な管理と経営がうたわれた。だが、貧困や人口急増にあえぐ途上国では、声明の内容を遵守できない状況にある。

＊　＊

日本は国土の七割を森林が占める国である。これは日本の農耕文明が比較的新しいことと、稲作中心で牧畜が行われなかったせいである。そして日本人は、自然の生態系の中でその摂理に従って生きてきた。このことは、日本人の精神構造や生活様式にも影響を与えている。記紀の中にも各種の木の名前が登場するが、日本人はその特性を活用してきたのである。例えば、法隆寺の建築用材は樹齢千年を越える檜である。檜材は切ったあと二百～四百年の間はむしろ強度が増し、それから徐々に弱まるという。木の強さは驚くべきものである。日本人はそれをよく知り、利用してきたのであった。

古来日本は省資源と省エネルギーに徹しつつ、高度な文化を育んだ国である。その典型は江戸時代に見られる。家は畳敷きで狭く、同じ部屋を食堂・仕事場・寝室など各種の用途にあて、燃料も山の木や炭を使った、着物や履物は規格化され、同じ製品を何代にもわたって利用した。これらは、当時の支配階級が質素倹約を旨とし、自然の摂理に従って生きることを知っていたからである。

＊　＊

最後に日本の森林の今後について述べたい。現在も日本には二千五百ヘクタールもの森林がある。これは戦後の植林事業の成果であり、今後も管理し整備する必要がある。木材は断熱作用を持ち、湿度の調整能力にすぐれ、衝撃吸収性にも富む有益な素材である。従って、二十一世紀の豊かな国民生活を支えるためには、伐採・植栽・成長の循環の中で、多様で質の高い森林を作ってゆくことが求められているのである。

「昭五会」の記

四十一年ぶりという酷暑つづきの夏も終り、めっきり秋めいた十月六日、恒例の昭五会を、往年の栖山グランド所在の千秋会館で開いた。

午後三時に会席につく。そして世話人の本間氏の司会により、今年の物故者、塩田・菊地（泰）・金沢・吉武・佐藤（岩）五君の霊に黙禱を捧げた。ついで会務の報告があり、それから懇親会に入った。

つどい

会する面々は八十一歳から八十五歳の老人乍ら、大部分は結構いける口を持っている。飲む程に語る程に次々に話がはずむ。その話題の第一は百七十一名会員の中で、今年も五名逝き、現存者四十九名になって了った。おたがい元気で集まれる幸福なこと、第二に懐かしい故人との交遊と欠席者の動静、第三には家族の様子、第四には母校野球部の甲子園出場・健闘に象徴される運動と学業併立の隆々たる姿、第五には一昨日の四日夜の北海道東方沖地震の大きな惨禍、それが本県ではさしたる被害のなかったこと、第六には酷暑の余徳コメの大豊作、これで去年の凶作の苦しみ脱却、そして第七はこうして毎年楽しい会合の持てるのは、偏に本間氏の献身あればこそ、感謝感激、これにどう酬いるかが異口同音の声であった。

信光、堀井太郎、宮崎政一、和賀茂、藤本儀一（藤本記）

やがて五時三十分、遠来の人々の帰りの時刻到来となり、心惜しくもまたの再会を期して散会した。

出席者次の通り、安倍興、相沢謙一、伊藤武雄、大島秀太郎、桜田正吉、笹山秀武、柴田與太郎、高橋

慶祝

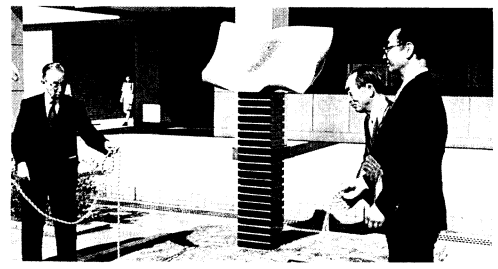
黄綬褒章
石川信一郎S20
業務精励（官報販売業）

勲三等瑞宝章
高安泰助S13
教育研究功労

勲五等双光旭日章
今山弘毅S14
消防功労

平成六年度教育者表彰（文部省）
椎名光雄S28
二十七年卒
十日会々員
辻悌五郎
伊藤隆
兼松稔
西田繁男
藤原豪雄
堀井静助
三浦祥一
山内

彫刻「風の舞」が贈られる



秋田高校の創立百二十周年を記念する、芸術の香り高い彫刻が去る七月二十一日に学校に贈られた。これは本校昭和三十四年卒業の彫刻家、遠藤洪平六氏の手になる「風の舞」と名づけられた作品である。このたび母校の記念すべき年に当たり、是非自らの作品を寄贈したいとの申し出が同氏から同期生の那波伊四郎氏を通じて同窓会に寄せられた。同窓会では協議の上、これをありがたくお受けすることとし、早速同氏に制作を依頼した。そして同窓会から学校への贈呈の形でこのたび披露されたのである。

除幕式の当日、白いおおいの中から姿を現したのは、白御影石の波状の形をした抽象彫刻である。「さわやかに舞い上がる風のイメージに、母校の発展と向上を託した作品」と式に出席した遠藤氏はあいさつの中で述べた。式には丸山同窓会長、椎名校長、生徒代表など関係者多数が出席した。

「風の舞」は現在生徒昇降口正面に据えられている。

会員随想

芸術の夕映

仙北谷　晃一
（S27卒）

この表題はニーチェに出て来るのだが、今その詮索には立ち入らない。私はこのことばに魅力感じ、ここでは多少私流に使ってみたいのだ。

還暦を過ぎた私は定年まであと三年余りだが、この数年半ば意識的に関心の幅を文学から芸術一般に拡げて来た。流行は追わず、時勢にも流されず、自分が本当に読みたいものを読み、聴きたいものを聴き、見たいものを見るように心がけて来た。しかしもう私に残された時間は限られており、「生の一瞬一瞬は死に向かっての歩みである」と言ったあのコルネイユのことばが身にしみるようになった。それで本を読むにも、いきおい選択は慎重に基準はきびしくなる。何しろあれを読めばこれは読めないのだから。

この数ケ月の間に私の関心の圏内に入って来て私を虜にした芸術作品を挙げてみよう。ソフォクレスの悲劇「アンティゴネー」、シェイクスピア晩年のロマンス劇「シンベリン」、ベートーヴェンのピアノソナタOp109とクワルテットOp131、モーツァルトのピアノ協奏曲に491と弦楽五重奏曲に515、ブラームスのピアノ三重奏曲Op8と三つのピアノ小品Op117、レオナルド・ダ・ヴィンチの「聖アンナと聖母子」（パリ、ルーヴル美術館）と長谷川等伯の「松林図屏風」（東京国立博物館）等々。これら傑れた作品に繰り返し接する度に、こちらの印象は密度と深さを加える。それはもはや疑いようのない法則のようなものだ。ソフォクレスとシェイクスピアはずいぶん以前に読んだきりになっていたから、全く新鮮な感銘を得ることが出来た。コンピューターにはあり得ない忘却ということが、人間に与えられた恵みの一つかもしれない、と私は皮肉な考えにも誘われた。一度接したものを決して忘れないというなら、私たちは作品を愛しむように繰り返し繰り返しそれに向かうということを横着にもしないであろうから。

またこんなことも思った。――芸術の魅力とはそこに秘められた謎の同義語ではあるまいか。そういう作品だけがいつまでも生き続ける。芸術は個々人の人生などたやすく越えてしまう。しかしそれを見くびったり嘲笑したりすることはない。芸術の謎は人生にやさしい微笑みを投げかけているかのようだ。

私の人生の経験はまことに限られたものでしかないが、それでも年齢とともに少しは豊かになると、芸術作品の啓示するものも滋味を加えるか、より簡浄な美しさに凝縮してゆく。（その差は作品の性質によって生じるらしい。）いずれにもせよ、このようにして芸術の夕映は彩りを濃くしてゆく。夜の闇に没するまでの束の間、西空の夕映は明るさを保持するだろう。私ももうしばらくその夕映を仰ぎながら歩を進めてゆければと願っている。

（武蔵大学人文学部教授）

祝　秋高27会報創刊
二十七年卒
十日会々員
辻悌五郎　伊藤隆　兼松稔　西田繁男　藤原豪雄　堀井静助　三浦祥一　山内

秋高27会報
＝平成6年11月創刊＝
「最後の秋中生」の心を繋ぐ新聞
第2号（来春発行予定）原稿募集
提言、随想、詩歌、写真…大歓迎
発行　昭和27年卒　同期会
編集人　信太聡一（☎FAX 0188-23-6688）

HONKIN 西武 ほんきん
取締役会長
小玉　得太郎
（S18卒）

歯科　中村医院
中村　正
（S17卒）
秋田市千秋矢留町2－6
TEL　0188(32)3358

昭和四十二年卒同期会

昭和四十二年卒同期会が八月十一日、秋田市の「杉のや」に約七十人の同期生を集めて開かれた。来賓として椎名光雄校長と丸山健同窓会長、それに坂田良一、伊藤仁、幸野稔、武田武志各恩師も出席、母校入学後三十周年にあたる記念同期会に花を添えた。

校歌全五番を全員で高らかに斉唱したあと、地方自治に携わる竹屋直太郎君と小畑元君から近況を報告してもらい、さっそく乾杯に移った。

折しも夏の甲子園大会の真っ最中。話題の中心はどうしても二日後に対樟南戦を控えた母校硬式野球部の戦前予想に集まった。うだるような猛暑のなか、暑気払いの酒は母校の活躍を肴にことのほかピッチが上がり、宴たけなわのうちに散会した善男善女たちは、あり余るエネルギーのはけ口を二次会に求めて、夜の帳に包まれた川反へと消えていった。

秋田営林局支部総会

恒例の支部総会が、九月二十四日弥高会館で二十一名が出席して開催され、三十二名の物故会員のご冥福を祈り黙禱を捧げたのち議事に移り、会務報告、収支報告等承認され、新役員を決定して終了しました。

当支部は現役会員が年々減少していくためOBと一体となり組織されていることから、会運営のための会費徴収の問題が一番の懸案事項となっております。また、会員の三分の一の方々からご寄稿を頂き初めての会誌を発行しましたが、それにかかった費用のねん出について今後新役員で対処していくこととしました。

総会終了期、同窓会から丸山会長、伊藤事務局長、母校から河先教頭先生、営林局から安藤森林管理部長のご出席を頂き懇親会に入り、久しぶりの再会に先輩後輩入り乱れ、初秋の一夜話に花を咲かせ、時の経つのを惜しみつつ校歌を斉唱し、散会しました。

新役員

会　長　根岸秀治（S17卒）
副会長　高山　実（S18卒）
〃　吹浦忠充（S33卒）
事務局　加賀谷時雄（S21卒）
〃　佐藤　實（S34卒）

秋高三九会卒業三〇周年 記念式典・祝賀会

秋高三九会卒業三〇周年記念式典・祝賀会が、六月十一日午後三時三〇分より旅館築太楼にて行われた。

先ずは晴天の中、屋上にて恩師十一名と出席会員百四十二名が記念撮影をした。

式典は、加成義臣君司会のもと、恩師入場で始まり、開会宣言の後、成田朝春先生と七名の物故者に黙禱、そのまま全員起立で、校歌が高らかに斉唱された。

秋山秀昭実行委員長の式辞、佐藤一誠三九会会長の挨拶に続き、来賓を代表し舘岡昇一先生が思い出を披露。恩師への記念品贈呈では、平野庫太郎君作の「油滴釉壺」が贈られ、岡準造先生が謝辞を述べられた。

三九会功労者表彰では、表彰状と吉田仁誠氏（號鹿山・昭和十六年卒）揮毫の書が目黒大作初代会長と渡辺克忠事務局長に贈られた。

引き続き、真新しい支部旗が西日本支部長・磯村勝三君、関東副支部長・倉泉信夫君、東北支部長・松本岸雄君に手渡された。

祝賀会は、松本岸雄生徒会長の乾杯で始まった。一同は再会の喜びに溢れ、あちこちからの「乾杯」の大コールが怒濤のように重なり響きあい、会場は熱気で〝坩堝〟と化してしまった。

恩師による各クラス出席者点呼や祝電披露の後、同期の俳優栗津號君が「上野駅発14番線」の一人芝居を熱演。恩師スピーチでは、懐かしい小川良子先生と武田喜代志先生が登場された。

同期の阿部信泰外務省経済局審議官は、小和田雅子さんの話も交えながら、任務の近況等を話してくれた。

終宴セレモニーでは皆で肩を組み「高校三年生」の大合唱、そして静かに「ふるさと」を歌った後、幸野稔先生による万歳三唱が行われ、午後六時四〇分、閉会宣言がなされた。

二次会は、本会出席者の殆ど全員が参加、途中参加者も合流し、大盛況となったが、午後九時散会した。

名残りは尽きず、飲み明かしたり、翌朝を待ちかねて仲間を集め、再開したグループもあったと聞く。

『原点に戻る』をテーマとして昨年八月に実行委員会を結成、すぐ消息不明者の調査を開始、九月の趣意書発送、十月の関東支部訪問、三月の西日本支部・東北支部の結成、五月の記念誌発行、そしてこの日、と数々の事業が成功裡のうちに幕を閉じたことによって、辛かったことも全て楽しい思い出となり、爽やかな充実感が残った。

旧交を暖め、協力しあったこの一年間の実行委員会の経験は、新たな三九会の発展につながるものと期待される。（赤沼記）

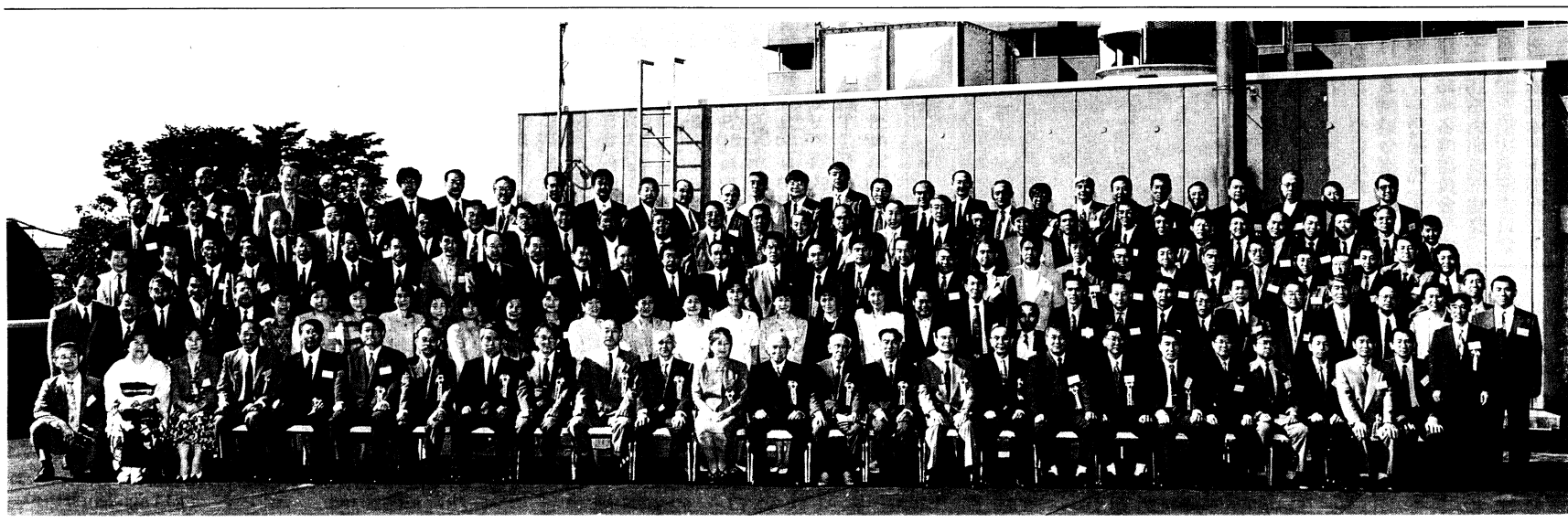
「十一紫会」（昭和十一年卒第四十九期）

会場に向う途次、マイクロバスで母校前の同窓会館に立寄り、伊藤事務局長の案内説明で、初めての見学をする。歴代校長の写真像をはじめ、豊富な数々の資料を見て、後日ゆっくりと見学する機会を得たいと異口同音の感想。（恩師古村先生の記念碑前で記念撮影して感無量。）

近くの秋田温泉プラザで一汗流して宴となる。同期の佐藤卯兵衛社長の贈呈による「銘酒新政」に盃を汲み交わし、金婚式を終えた話題やら激動の昭和時代を生きた追憶等々「喜寿」の祝いをかみしめて、お互いの健康を確かめあい、又の再会を約して散会する。

当日の出席者

佐藤民治　国柄隼男
目黒武士男　熊谷義一
森　義亮　渡辺純一郎
佐藤岩雄　栗谷錬治
小野静男　小川宇一郎
菅生正雄　信田　昭
伊藤　馨
（事務局　伊藤記）



…信頼と技術で奉仕する…
防水工事・内装工事
株式会社 東和
代表取締役社長
野口　久栄
（S47卒）
秋田市大町2丁目7－26
TEL　0188(64)4561㈹
FAX　0188(64)4564

●住空間をトータルで考える家具の専門店●
家具のしみず
株式会社 清水養吉商店
代表取締役
清水　宏（S47卒）
秋田市大町6丁目2－64
TEL　0188(65)0345

内藤法律事務所
弁護士
内藤　徹
（S28卒）
秋田市中通3丁目2－44 河北ビル5F
TEL　(34)3674・(34)3759

医療法人正観会
御野場病院
理事長
小林　尚士
（S28卒）
秋田市御野場2丁目14－1
TEL 0188(39)6141

秋田清酒 竿灯
取締役社長
小林　忠雄
（S28卒）
秋田市楢山登町5－2
TEL 0188(32)2818

学校生活を応援します
卒業アルバムの製作は
「岩田写真」へお申し込み下さい
株式会社 岩田写真
本店 0188(34)5015　支店 0188(45)1284
代表取締役
岩田　次夫
（S28卒）
秋田市中通1丁目3－30
TEL　0188(34)5015

富山インターハイ報告

柔道と陸上で活躍

「第四十三回全国高等学校総合体育大会」が八月一日から富山県で行われ、本校の奥村俊樹選手（三年）が柔道の個人中量級で三位、加藤琢大選手（三年）が陸上の走り幅跳びで十二位に入った。

【柔道】―八月二・三日―（小杉町民体育館）

個人中量級

決勝トーナメント

▼二回戦▲
奥村○優勢勝　三木（宮崎・延岡学園）

▼三回戦▲
奥村○優勢勝　本川（富山・小杉高）

▼準決勝▲
奥村　裏投げ○渡辺（熊本・八代工）

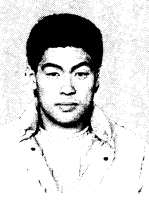
【陸上】―八月一日―（富山県営陸上競技場）

男子走り幅跳び

▼予選通過▲
加藤琢大　7m15cm

▼決勝▲
加藤琢大　6m77cm　12位

全国十一ブロックから各六人ずつ、計六十六人中の十二位という快挙である。



奥村　俊樹君

私は、中学校時代から大きな夢があった。それは、「日本一」になることである。しかし、中学校の時は全国大会ベスト16で終わり、その悔しさを引きずり秋田高校へ進学を決意した。

「インターハイでは必ず日本一になる」という執念が、厳しい練習や怪我にも負けずにやってこられた一番の理由である。そして、忘れてならないのがすばらしい先生に出会えたことである。船木賢咲先生、山田公一先生、佐藤信英先生の教えを受け、私の柔道の幹が出来た。

いよいよ三年生最後のインターハイと言う檜舞台に臨む時を迎えた。二年生の時の反省や今までの練習の成果が脳裏によみがえり、自然に集中力が高まり最高の状態であった。

初日の予選一・二回戦は、一本勝ちと技有りで勝ち、難なく終えた。そして勝負の日である二日目、三回戦は一本勝ちをして予選を通過した。体調の良さからくる過信でトーナメントのベスト8で怪我をしたものの苦戦の末勝ち、ベスト4で体力そして精神力も力尽きて、涙を飲んだ。

成績は目標に達することが出来なかったが、三年間やってきたことに私自身満足することが出来た。しかし、私の目標は、あくまでも「日本一」なので、その達成に向けてもっともっと精進していきたい。

三浦麻衣子さんが

高校生の主張コンクールで

最優秀賞

「第十五回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」が十月二十一日、湯沢商工高校で開かれ、本校二年の三浦麻衣子さんの「幸せそれとも不幸せ」が最優秀賞に輝いた。

「幸せそれとも不幸せ」の言葉を言う度に、いろいろなネパールでの思い出が私の中をかけめぐります。

「ナマステ」これは、私が一番最初に覚えた、一番好きなネパール語です。この言葉は、私が発展途上国に興味をもつようになったのは、昨年の秋、私の高校の卒業生である、国連の明石康さんの講演を直かに聞いてからでした。アンタックの特別代表としてカンボジアの和平に貢献したお話を聞き、私は明石さんがカンボジアで成し遂げたことに尊敬と感動を覚えると同時に、発展途上国と呼ばれる世界の国々をこの目で見てみたいと思うようになったのでした。そして、私にその機会を与えてくれたのが、昨年の冬に行われた青年海外協力隊のネパールスタディツアーでした。―〈中略〉―

現地の人に嫁いだこの日本女性はこう語ってくれたのでした。「病気は精神的なことも全て関係して起こるのです。だから、私達は祈禱によって、家族全員が回復を願って一生懸命になっていることを病人に知らせるのです。そして、病人を精神的に元気づけ、それが生きる力へと変わるのです。」私は、太鼓の音と祈りの声の中で、このお話を思い出しながら、今の私達の生活の中で何か欠けているものをこのネパールの国は持っているのではないかと考えさせられました。

私達は、病気というとすぐ薬や医者というふうに考え、精神的なものの持つ意味は忘れがちです。病気の時だけとは限りません。物に恵まれていても、精神的に貧しい生活を果たして幸せと呼べるでしょうか。私はそうは思いません。むしろ、物質的には貧しいけれど、一人一人がお互いを気づかい、家族愛に満ちあふれたネパールの人達の生活の方がずっと人間らしく、幸せのような気がします。でも、ネパールにも解決しなければいけない問題は沢山あります。まだ〝衛生〟の観念がないせいか、街や川はゴミだらけでした。また、訪問したカンティ小児病院では、未熟児治療用のICUユニットが故障しても修理もできず、使用できるのはわずかに数台でした。その上、栄養失調が原因と思われる病気の子供達のベッドは廊下にまでおかれていて、ただねかせられているままでした。また、教育環境も整っていなくて、殆んどの子供は学校へ行かずに働いているのでした。

このように、ネパールは沢山の問題も抱えていますが、ネパールでは美しい自然に囲まれ、温かい家族愛、人間愛が育まれています。そのことを世界の人々に知ってもらい、医療や教育の問題を解決するパイプ役として働く外交官となって、私はもう一度ネパールへ行きたいと考えています。

※紙面の都合により一部承略させていただきました。

ボート部が東北大会で優勝

「第九回東北高等学校選抜漕艇大会」が九月三十日から十月二日、福島県の荻野漕艇場で開かれ、ボート部が、舵手付きフォアで優勝し、来年三月に静岡県天竜川で行われる全国大会の出場権を得た。

舵手　門間圭紀（一年）
整調　島　康介（二年）
三番　斉藤　新（二年）
二番　佐々木智彦（一年）
舳手　高堂裕志（二年）

〈決勝〉
一位秋田　3分8秒90
二位西会津（福島）3分11秒85
三位塩釜（宮城）3分14秒30
四位喜多方工（福島）3分15秒32

◇　◇　◇

九月三十日の大会前日、台風の影響でダムが放水し、練習中止。定期考査のため一週間あまりまともな練習をしていなかったので、不安をかかえながら予選を向かえる。しかし、前日、宿のご亭主が出してくれた馬刺が効いたのか、二位以下に大差をつけて予選を通過。

その後順調に勝ち上がり、決勝では、来年の福島国体をひかえ、強化選手をそろえた西会津高校とあたる。しかし、この不安もスタート直後に消し飛んだ。相手を後ろに見ながらのレースは精神的に楽であった。結果は、二位の西会津に一艇身の差をつけての余裕の優勝であった。

二年後には、創部百周年を迎かえる。漕艇部の今後に期待してもらいたい。

放送が全国大会へ

秋田県高文連放送部会主催の「第十五回秋田県高等学校放送コンクール」が、十月十二日、秋田県生涯教育センターで開催され、ラジオ制作CM部門が、十二月二十六日の全国大会への出場権を得た。

〈アナウンスDJ部門〉
最優秀賞　伊藤奈都子（二年）

〈朗読部門〉
最優秀賞　進藤千央子（二年）

〈ラジオ制作CM部門〉
優秀賞　「ハタオくんとハタコさん」田村保子（二年）
脚本　伊藤・進藤両名は東北大会へ

・作品紹介

ラジオCM部門は、30秒±5秒以内という規定で、今回は「わが町紹介」がテーマでした。

今回製作したCM「ハタオくんとハタコさん」では「来てね、食べてね、秋田県」をキャッチフレーズに秋田県を名物のハタハタによって紹介するというものでした。ハタハタに「ハタオ・ハタコ」と名前をつけることや、しゃれを用いることで聞き手を引きつけ、演技とBGMで軽快なテンポを出しました。（放送部）

会務報告

▽だより44号で報告後の会務は次の通りであります。

8・6　近畿支部総会
11　42年次同期会
14　ラグビー部創立70周年記念式典
茨城秋高会総会
9・3　横手・平鹿支部総会
7　25年次同期会
17　東仙北支部総会
19　営林局支部総会
24　企画委員会・広報委員会
10・14　追分支部三叉路会総会
11・5　名簿委員会
15　大曲支部総会
16　年次名簿委員会
22　本荘支部総会
24　岩手支部総会
26　男鹿支部総会
26　財政委員会
29

哀悼

（判明分・敬称略）

本間　道（S13）東京都6・6
西宮　尚（S18）秋田市6・7
嵯峨　清三（S7）秋田市6・7
石田テイ子（S31）横手市6・7
春日井尚正（S26）秋田市6・7
菅原　菊男（S13）東京都6・7
岩城　信雄（S20）秋田市6・7
吉井　忠亮（S13）秋田市6・7
小松　秀光（S10）横手市6・8
柳田　易男（S15）横手市6・8
大部　次郎（S7）東京都6・8
押谷　正（S12）横浜市6・8
鈴木　繁郎（S18）秋田市6・8
高橋　健一（S48）秋田市6・8
畠山　政一（S15）柏　市6・8
若林　敏彦（S25）秋田市6・8
小林　繁春（旧職員）大館市6・9
佐藤　岩雄（S5）秋田市6・9
遠藤　一秋（S17）秋田市6・9
越中屋栄一（S8）愛知県6・9
宮田　正彦（T13）秋田市6・9
湯沢　一男（S10）秋田市6・10
目黒晃治郎（S4）男鹿市6・10
五十嵐和子（S38）秋田市6・10
中野　伸（S26）秋田市6・11
境田武太郎（T7）秋田市6・11
小川　義平（S18）秋田市6・11

昭和57年卒
同期生一同

土崎信用金庫
松本　圭司（S37卒）
秋田市土崎港中央1丁目17－23
TEL　0188(45)0131

ナベシマ時計店
鍋島　喜隆（S37卒）
秋田市土崎港中央5丁目7－17
TEL　0188(45)0947

寺田内科医院
寺田　俊夫（S37卒）
秋田市旭南1丁目1－6
TEL　0188(62)4680

COSMO21
株式会社 コスモトゥエンティワン
代表取締役
小坂　勝則（S37卒）
〒107　東京都港区赤坂1－5－2
TEL　03(3586)5921

株式会社 ユニテック
専務取締役
石川　利雄（S37卒）
〒289-11 千葉県八街市八街は3－230
TEL　043(443)2571

秋田三菱自動車販売㈱
代表取締役 専務
三浦　潔（S48卒）
秋田市川元開和町4－17
TEL　0188(62)5111㈹

医療法人　鹿嶋医院
副院長
鹿嶋　秋五（S48卒）
男鹿市北浦北浦字山王林4－2
TEL　0185(33)2035

一般建築材・新建材・銘木・住宅機器
サッシ・軽量二階梁
株式会社 藤井材木店
取締役社長
藤井　雄吉（S38卒）
秋田市川元小川町4－10
TEL(62)3318㈹
FAX(62)3365

山の幸 川の幸 自然がいっぱい
ニュータウン青葉台
太平プロジェクト
代表
鈴木　嘉重（S38卒）
秋田市太平山谷字中山谷181
TEL　(38)2823・(38)2888

総合建設業
中央土建株式会社
代表取締役
伊藤　久一（S38卒）
本社　秋田市外旭川字在家48－1
TEL　0188(68)3322㈹

株式会社 誠文社
一関　千里（S38卒）
秋田市寺内字イサノ134－1